



特集

札幌の短い夏を楽しむ特別な一夜 「カルチャーナイト」を企画・運営する —— 認定 NPO 法人カルチャーナイト北海道

Book Stories 本づくりのさきにあること——。

.....『日高山脈襟裳十勝国立公園誕生 北海道の脊梁 日高山脈』
【編著者】黒川 伸一さん

ほっかいどうの本『日本サブカルチャーと危機 死と恐怖の表象史』 北海道大学出版会
『石炭挽歌 NHK 札幌放送局〈炭鉱事故〉担当アナウンサーの記録』 寿郎社
『その花可憐に色青し 北海道亜麻物語』 共同文化社



2018年に赤れんが庁舎前で開かれた実行委員会企画「マジックアワー・ライブ」

特集

札幌の短い夏を楽しむ 特別な一夜 「カルチャーナイト」を企画・運営する —— 認定NPO法人カルチャーナイト北海道

年に一度だけ、夜間に美術館や博物館などさまざまな施設を開放し、普段は入る機会のない放送局や気象台なども自由に見学できる「カルチャーナイト」は、20年以上にわたり開催され、札幌の夏の風物詩といえるイベントの一つです。子どもだけでなく大人にとっても、非日常体験を楽しみながら、郷土の歴史や文化、産業、それらを支える人々の営みを知る機会になっています。産官学民の多様な主体が参画するカルチャーナイトの歩みや魅力などについて、実行委員会事務局を担う認定NPO法人カルチャーナイト北海道の山本強理事長(北海道大学名誉教授)、畑瀬亜紀子事務局長ら関係者の皆さんに聞きました。

(文・写真／片山健一 取材日2025年6月4、26日 ※クレジットの記載がない各プログラム写真は全てカルチャーナイト北海道の提供です)

札幌で2003年に始まった 「まちの文化祭」

みんなで創る「まちの文化祭」、それがカルチャーナイトです。夜間開放された公共施設や企業の施設を市民や観光客が訪問し、日常では入れない時間帯に施設の裏側を見学したり、特別な文化プログラムを体験したり、現場で働く人たちの話を聞いたりして、まちの魅力を発見するイベントです。

札幌のカルチャーナイトは、2003年7月25日に初めて開かれ、それ以来23年間、学校の夏休み

の直前、7月後半の金曜日に毎年開催し、子どもたちは「親公認の夜更かし」を満喫します。

これまでに参加した施設・団体数は累計2261。一般参加者は来場者数とオンライン動画再生回数を合わせると延べ52万4975に上っています。実行委員会には「普段入らない施設に気軽に行ける良い機会でした」「子どもが楽しんでいたの、来年も参加したいです」といった来場者からの感想が届きます。

2025年のカルチャーナイトは、7月25日です。施設見学、職業体験、コンサート、ワークショップなど、実行委員会をはじめとする97

の参加団体はそれぞれの専門分野や特色を活かした250以上のプログラムを用意しています。予約なしでも参加できるものが多く、いくつもの施設を巡ることができます。YouTubeカルチャーナイト公式チャンネルで公開するオンラインプログラムも、同日の午後5時から一斉配信し、8月8日正午まで公開します。

**毎年2万人が楽しみ、
1400人が運営する**

札幌のカルチャーナイトを主催しているのは、産官学民で組織するカ



カルチャーナイト北海道の
山本理事長



カルチャーナイト北海道の
畑瀬事務局長



夜の北海道立近代美術館を訪れた市民



「カルチャーナイト実施中」と表示する北海道警察本部



北海道立三好好太郎美術館内での演奏会



ルチャーナイト実行委員会です。事務局として企画・運営の中核を担うのは、認定NPO法人カルチャーナイト北海道で、プログラムを実施する団体に所属する約1400人の運営スタッフ、約130人のボランティアスタッフを束ねます。

例年、約2万人に上る来場者の年齢層は、子どもと、大人がほぼ半々です。子どもの保護者のほかに、幼少期にカルチャーナイトを体験した世代が社会人になり、仕事帰りにカルチャーナイトへ立ち寄るスタイルも定着しつつあります。

一晩で回れる施設は多くても5、6カ所、中にはじっくり時間を掛けて楽しむプログラムもあります。そのため実行委員会には、「一日では回りきれない」「もっと時間を延

長してほしい」という要望が多く寄せられます。ただ、一日限りの特別な夜であることもカルチャーナイトの魅力であり、「今年行けなかった所は、翌年に行けるよう、プログラムを提供する団体には継続して参加してもらいたいです」と畑瀬さんは言います。

産官学民が地域ぐるみで連携して、子育て支援のイベントを20年以上継続していることが評価され、今年2月には住友生命の「第18回未来を強くする子育てプロジェクト」で、スミセイ未来賞を受賞しました。

北海道にカルチャーナイトを

カルチャーナイトは、もともと北欧発祥のイベントです。

北欧には「ポテトホリデー（ジャガイモ休暇）」という、子どもがジャガイモの収穫を手伝うための秋休みが10月にあり、その直前にカルチャーナイトを開く文化が根付いて



白バイ試乗は人気のプログラム

いるそうです。

日本では例のなかったカルチャーナイトの開催を提唱したのは、2002年7月から2003年5月までの間、北海道副知事を務めた佐々木亮子さんです。もともと民間の経営コンサルタントだった佐々木さんが、1997年10月にデンマークのコペンハーゲンに出張した際、カルチャーナイトに遭遇します。

いつか札幌でも開催したいという思いを温めていた時期に、民間出身の副知事として起用され、すぐに「北海道版カルチャーナイト」の開催に取り掛かります。道庁主導で準



北海道知事公館で「北加伊道カルタ」を楽しむ



札幌市博物館活動センターの収蔵庫で学芸員が説明



北海道知事公館でコーラスグループが合唱



大勢の親子連れが順番待ち

備を進め、道教育委員会や札幌市、地元の放送局などもメンバーに加わり、実行委員会を立ち上げました。

「ふだん見えないものが見られる、ふだん聞けないものが聞こえる、ふだん行けないところへ行ける、ふだん話せないことが話せる、北海道の短い夏の長い夜。」――

これは、その時にまだ、多くの札幌市民が見たことのないカルチャーナイトを端的に表現するためにつくられたキャッチコピーです。

2003年7月に開かれた第1回のカルチャーナイトは、札幌市中部にある20カ所の施設を夜間開放し、57プログラムを実施したところ、約2万人の市民や観光客が訪れました。

立ち上げ時には道庁などの行政機関が公共施設の夜間開放を後押ししましたが、現在は市民サークルから大企業までが横並びで参加しています。2006年には事務局をNPO法人化し、行政頼みにも商業主義にもない運営形態を維持しています。

より深く 知ってもらいたい

カルチャーナイトに協力する企業・団体の多くは、CSR（企業の社会的責任）活動、地域住民との接

点を増やすことを目的としています。ある企業の担当者は「認知を広げることも大切ですが、来場者が満足してリピーターになってもらいたい」と話し、カルチャーナイトは自社を「知っている」から「好き」になってもらうチャンスと捉えています。

来場者の満足度が高いプログラムには、翌年に友達を誘って一緒に訪れるという行動パターンが見られるそうです。実行委員会が実施する来場者アンケート結果によると、お土産などをもたえることに対する評価はさほど高くなく、日常とは異なる体験を求める傾向が顕著に表れています。参加団体は、こうした調査結果などを踏まえて、公開実験やコンサート、プロジェクトセッションマップピンなど趣向を凝らしたプログラムづくりに励んでいます。

ある企業は、入社1、2年目の若手社員でカルチャーナイトチームを結成し、自社の魅力を知ってもらうプログラムを企画立案させることを、人材育成の一環として位置付けているそうです。

近年は、オフィスのセキュリティが厳しくなり、予約制の会場も増えてきた一方で、郊外の造園業の会社や、町内会と連携して、夏祭りのような形で広い敷地を開放している例

もあります。中心街にある大手企業や官庁以外でも、より身近な場所でもカルチャーナイトを楽しめるようになっていきます。

さらに、実行委員会では今年2月に「カルチャーナイトのはじめかた講座」を初開催しました。カルチャーナイトに参加したい団体、ボランティアに協力してみたい人たちのための講座で、実際に活動する関係者の声を聞く機会を設けた結果、16団体から新規の応募がありました。

コロナ禍も オンラインで開催

多くの市民や観光客に貴重な文化体験を提供してきたカルチャーナイトですが、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、開催が危ぶまれた2020年は、初の動画配信によるオンライン開催に踏み切りました。

52の参加団体が事前に収録した80以上の動画プログラムを、7月17日17時から公式チャンネルで一斉配信し、メインステージとなる知事公館からは生配信で「カルチャーナイト2020ライブ」も届けました。

「地域の魅力や価値を体感し、再発見する」というカルチャーナイトの価値を、現地に行かなくても提供する手法を確立したことで、施設開



運営を陰で支えるボランティアスタッフ

放を再開した2022年以降もオンラインによるプログラムが定着し、一般市民を入れることができない施設でも内部を公開できるなど、プログラム数の増加につながりました。

見守りなどに活躍するボランティア

カルチャーナイトでは過去に一度も、大きな事件や事故は起きていません。子どもたちが安心して夜に出



「カルチャーナイト 2020 ライブ」で配信されたアイヌとフィンランドの民族楽器の演奏

掛けられるように、参加施設の職員が細心の注意を払い、ボランティアのスタッフたちが周辺を巡回するなど、地域全体で見守っています。

当日は地域をよく知る郵便局長会などに協力を仰ぎ、パトロールなどを行ってもらいます。また、カルチャーナイト参加団体のOB・OGたちも駐車場の誘導など運営の補助に活躍しています。

事前準備にもボランティアの協力が欠かせません。事務局の常勤は、加賀千登世副理事長と畑瀬さんの2

人だけなので、ボランティアスタッフが本業の合間に、13万部印刷するチラシの配布、地下鉄駅や学校など830カ所以上で行うポスターの掲出などをサポートしています。

1日のために奔走する事務局

認定NPO法人カルチャーナイト北海道の活動の大半は、たった1日のカルチャーナイト開催のために費やされるそうです。参加団体の募集に始まり、参加団体から企画書に基づくチラシの制作とウェブ用の各団体紹介ページの作成、開催1カ月前から市民に向けた情報をリリースします。

並行して参加団体向けには安全対策などの注意事項を周知し、開催当日に必要なボランティアの派遣要請などに応じたマッチング作業も行います。

カルチャーナイト終了後は、来場者アンケート結果などのデータを整理・分析して参加団体にフィードバックし、10月になると、翌年に向けた開催時期や企画などの検討が始まります。

カルチャーナイト開催経費は、約680万円に上りますが、公的な資金には頼らず、ほとんどを寄付金で



6月26日に開かれた参加団体担当者会議では予想以上に来場者が集まった場合の対応策を検討するよう伝えられた

賄っています。企業・団体を訪問して協賛金を募っているほか、参加団体には、カルチャーナイト推進負担金を拠出してもらい、広告費や保険料に充てています。

その一方、来場者は基本的に無料です。カルチャーナイト開催の安定した財源を確保するために、カルチャーナイトを楽しむ個人にも応援してもらおうと、毎月500円以上をクレジットカード決済で寄付する「マンスリースポーター制度」を2024年に創設しました。このほか、着なくなった洋服や使わないブランド品などによる寄付も受け付けています。



はこだてカルチャーナイトの一コマ
(函館商工会議所青年部提供)

道内各地で開催される カルチャーナイト

カルチャーナイトの趣旨に共感し、北海道内各地では取り組みの輪が広がっています。函館市は2005年から、西興部村は2006年から、室蘭市は2012年から継続して開催しているほか、過去には夕張市、士別市、登別市、中標津町など約20市町村で開かれてきました。それぞれの地域ごとに実行委員会

などが組織されており、カルチャーナイト北海道では、開催ノウハウなどの情報を提供するという形で連携を図っています。「札幌とは違う苦労もあると思いますが、ずっと続けることは大変で、本当にすごいことです」と畑瀬さんは目を見張ります。

「はこだてカルチャーナイト」は、函館商工会議所青年部が中心となり、夏の観光シーズン後の気候が穏やかな9月に開催しています。路面電車を何度でも乗り降りできる「市電ナイトラムチケット」の提供や無料シャトルバスの運行などもあり、2024年は延べ約1万3千人が約30会場を訪れました。

コロナ禍は通常開催が困難となったため、非接触の「はこだてモバイルカルチャークイズラリー」を企画するなど、柔軟な運営によって事業の継続を図っています。

道内では知られたカルチャーナイトですが、道外で開催している地域はありません。全国でもまれな取り組みのため、道外からも数多くの視察が訪れています。夜間の施設開放に対する理解と協力、来場者の安全確保などの難し

さもあって、実現に至らないようです。

持続する ムーブメントに

カルチャーナイトの前後には、実行委員会事務局の企画立案で、企業と連携して開催するプレイイベントやポストイベントも行っています。2024年のプレイイベントは、水産卸会社とのコラボによって「市場のお仕事とイクラ食べ比べ体験」を開催したところ、募集定員が10分ほど



好評だった実行委員会企画のプレイイベント

で埋まり、約1000人のキャンセル待ちが発生しました。今年はカルチャーナイト当日に、企業単独で好評だった企画を実施します。

今年のプレイイベントは市内のホテルと共催で、コロナ禍に使っていて不用になったアクリル板のついでを、「キラキラキーホルダー」に作り替える「アップサイクル」の体験イベントを実施します。アクリル板の切斷などには工業高校の生徒が協力しており、一連の活動をストーリー仕立てにまとめ、アップサイクルの事例紹介としてYouTubeで発信する予定です。事務局ではこれからも、さまざまな企業・組織と連携した取り組みをさらに拡充させたいと考えています。

山本理事長は「地域全体のエネルギーを結集し、開催しているのがカルチャーナイトです。自分たちの暮らしの成り立ちや文化、社会的課題などを次世代に伝える活動を市民理解の下、一つのイベントから持続的なムーブメントへと発展させていすね」と語ります。

お問い合わせ先

認定NPO法人カルチャーナイト北海道
〒060-0004
札幌市中央区北4条西7丁目5番地
緑苑第2ビル707号室
☎011-797-8145
電子メール office@culture-night.com
HPアドレス <https://culture-night.com/>

ブック・ストーリー・シリーズ
本づくりの
さきに
あること
。

『日高山脈^{えりも と かつ}襟裳十勝国立公園誕生 北海道の脊梁^{せきりょう} 日高山脈』

【編著者】

日本山岳会北海道支部長

黒川 伸一さん



CHECK

【書籍概要】

日高山脈襟裳十勝国立公園の特異な地質や地形の成り立ちを、雄大な自然の姿に目を奪われる約300枚の写真とともに、日高山脈登山の先駆的存在である北海道大学山岳部部員の紀行文のほか、多くの命を奪った雪崩事故やヒグマ襲撃事故などの記録、四季折々の日高山脈を描き続けた画家・坂本直行さんの功績なども収録しています。A4変型判、162頁、オールカラー、ソフトカバー、2025年5月共同文化社発行。価格：2,970円（税込）ISBN：978-4-87739-420-2

【本書お問い合わせ先】

株式会社 共同文化社 札幌市中央区北3条東5丁目

電話 011-251-8078 FAX 011-232-8228 URL <https://www.kyodo-bunkasha.net/>

道内書店をはじめ、Amazon、共同文化社サイトなどから購入できます。

本書のコンセプトなどを語る黒川さん

日高山脈と人との 関係を一冊に

「ご自身の日高山脈との関わりと、
本書での役割を聞かせてください。」

2024年6月、国内35カ所目の国立公園に指定された日高山脈襟裳十勝国立公園について、ガイドブックでも、写真集でもない書籍をつくらうと、『北海道の脊梁 日高山脈』は企画されました。日高山脈と深い関わりのある人々の物語にスポットを当てつつ、険しくも美しい日高山脈登山の魅力や日本一広大な国立公園の現状などを余すところなく伝えていきます。新聞記者時代から蓄積してきた資料、培ってきた人脈をフル活用しながら、自らも取材に奔走した編著者の黒川伸一さんに、本書に込めた思いを聞きました。

（文・写真／片山健一 取材日2025年5月27日）

東北大学の学生時代に山岳部に所属して登山を始めた私が、最初に北海道を訪れたのは大学1年生の3月で、日高山脈の1839峰に登りました。その時の印象が非常に強く、大学を卒業し住むなら北海道と決心し、マスコミ志望だったので、北海道新聞社の記者となりました。2年前に新聞社を退職するまで、日高山脈など山ネタに関する記事を書く機会に恵まれ、将来的に何らかの形でまとめたいという思いもあって、特異な遭難事故の記録や山の写真などは基礎資料として集めていました。

本書の編著者として依頼を受けた時、日高山脈に関するガイドブックや写真集は、既にたくさん出版され

ているので、今までにない本を作りたいと考えました。日高山脈のダイナミックな自然の成り立ちとともに、そこに関わる人々の物語を掘り下げるのが良いと考え、出版社の社長にも本の狙いを説明し、蓄積してきた資料を整理しながら、最新の要素も盛り込むため、現地取材を10回ぐらい重ねて、ワークノートに構想を練っていました。

日高山脈の登山史は、北海道大学山岳部が築いたと言っても過言ではないので、記者時代から取材でお世話になっていた北大山岳部のOB会「北大山の会」元会長で学生時代から日高に入ってこられた小泉章夫さんにも編集委員をお願いすることを了解いただき、編集委員会をスタートさせていただきました。

手持ちになかった山と山行記録の^{さんしゅう}写真や歴史的資料など、国立公園のエリアに含まれる自治体の情景など

の写真を集めるため、多くの方にお世話になりました。日高山脈に刻まれたエピソードと人のドラマの数々が詰まった一冊になったと思います。

日高山脈の美しさと自然の厳しさを伝える

—どのようなコンセプトで本書を構成しましたか。

導入部は、読み手を惹きつけるようにするのが良いと考え、出版社の編集担当者に相談した上で、これまで撮りためた写真と新聞社から購入する迫力ある空撮写真を生かして、

日高山脈のルート開拓の感慨がほとばしる名文を空撮写真などとリンクさせる構成を考え、第1章は「パイオニアたちの感慨」としました。北大山岳部が創設されて間もない頃の部員3人が、それぞれ日高山脈に分け入り初踏破、初登頂を果たした時の喜びを記した約100年前の紀行文の一部です。どれも感動が如実に表れた、今読んでも心に響く美しい文章です。北大山岳部の部報などには掲載されていましたが、一般にはあまり知られていないと思います、美しい空撮写真をバックにこれらの美文を掲載しました。

登山家らを魅了する

発刊に向け黒川さんがまとめたワークノートなど

る日高山脈は、プレート同士がぶつかり合って、めくれ上がるように形成された山地で、長い時間軸で隆起した山肌を氷河が削り、カールやナイフリッジといった氷河地形が造られ、美しい稜線になっています。第2章「貴重な自然の恵み」では、山脈の形成過程について、日高山脈博物館（日高山脈の東豊土芸員

に出稿してもらい、とりわけ特異な地質や植生があるアポイ岳周辺の紹介には、元芸員の田中マサヒト・アポイ岳ファインクラブ会長に協力を仰ぎました。東さんには特異な日高山脈全体の成り立ちをマクロ的に、田中さんにはその中でもさらに特殊なアポイ岳周辺の成り立ちと貴重さをミクロ的に書いてもらいました。

日高山脈と人との関わりは、山の形成過程と比べると実は非常に短い時間軸です。南北140キロの日高山脈は東西に幾重に連なり十勝地方と日高地方を分断していて、奥深い部分にはアイヌの人たちもほとんど立ち入ることができない険しい山並みでした。

ロシアの侵攻に備え、江戸時代中期・寛政年間の1799年によく日高山脈南部の丘陵地帯を越える2つの山岳古道が完成します。さら

に大正時代後期に始まる登山によって、日高山脈の主稜線周辺の貴重な地形と美しい景観などが徐々に分かってきました。それから、わずか1世紀という短い期間には、とても濃密な人々の物語が数多くあります。本書では、今後の教訓として生か



北大山岳部の遭難事故を伝える新聞記事や沢田リーダーの遺書

すためにも——という思いから、登山にまつわる3つの重大事故を取り上げ、ドキュメントとして整理しています。1940年のコイカクシユサツナイ岳の山頂直下の雪崩で北大山岳部の8人が亡くなった事故、1965年の札内川上流の雪崩で雪洞が埋まって北大山岳部の6人が亡くなり、リーダーの沢田義一さんが地形図裏に遺書を残していた話、1970年に福岡大学ワンダーフォーゲル同好会の3人がヒグマに襲撃されて亡くなった事故を掲載しました。

また、北海道電力により水力発電用の電源開発が進められる中、工事中に34人が雪崩で亡くなるという北海道最悪の雪崩事故も起きています。第3章の「日高山脈百年ものがつり」では、1世紀余りの歴史の中に刻まれた、悲喜こもごもの物語を整理しました。

第4章の「魅惑の登山フィールド」では、小泉さんら北大山の会の3人に日高山脈登山の魅力について寄稿してもらいました。米山悟さんには積雪期の日高山脈の面白さや北大山岳部の歩みなどを、夏の沢登りの楽しさなどは松原憲彦さんと小泉さんに書いてもらいました。

第5章「山麓に残された記憶」で取り上げた坂本直行さんは、厳しい山登りを重ね、遭難もまじかに経験する一方で、日高山脈の麓に定住して原野を開墾し、その合間に山の絵を数多く残しました。日高山脈の美しさを絵で知らしめた「チョッコウさん」の功績は、断片的には知られていますが、釧路生まれ、札幌育ちの直行さんが日高山脈にこだわった理由、製菓業の六花亭さん（帯広市）やアウトドア用具を製造・販売する秀岳荘さん（札幌市）との縁も知ってほしいと思いました。

日高山脈のこれまでを知り未来につなぐ

——本書を通じて伝えたいことは。

2016年8月下旬には4つの台風が連続して北海道を通過し、広い範囲で被害が出ました。特に日高山脈周辺の被害はひどく、日勝峠の国道や林道などの復旧には時間がかかり、入山できない間に登山道が荒廃し、登れなくなったり、遠くなった山がいくつもあります。しかし、この事実は登山者以外には広く知られていません。日高山脈は、国定公園から国立公園に昇格した時、保護面積が約2.4倍に広がりました。国は、2030年までに国土の30%以上を保全するという「30 by 30（サーティ・バイ・サートイ）」を目標に掲げ、公園の面積を拡張した経緯があります。国立公園内の登山道が利用できないほど荒れていることは、本州以南の国立公園や世界の国立公園を見ても、おそらくないでしょう。国策として面積を広げて国立公園にした以上、国が主導してきちんと維持・管理を進め、最低限の整備をすべきという主張を1ページですが盛り込みました。

また、日高山脈にはアイヌ語地名が多く残されていることが特色の一つです。1世紀前、当時無名の山ばかりだった日高山脈の山に、北大山

岳部の部員たちが入山する時は、水本文太郎さんをはじめとしたアイヌの案内人たちと一緒に登り、アイヌ語で山の名前を決めていきました。アイヌ語の地名を後世に残そうと取り組んだ北大山岳部の心意気も知ってもらいたいと思っています。雪に埋もれた雪洞で4日間生き延びながら、ヘッドランプの明かりをたよりに地形図の裏に記した北大山岳部の沢田さんの遺書や、福岡大の学生たちがヒグマと対峙した危機的状況の中で書いたメモも掲載している。日高山脈に関わる重大な事故の全容や、当事者の生の声も知ることが出来ます。

こうした様々なエピソードは、登山をする人には興味を深めながら読んでいただけるのではという期待を持っていますが、国立公園になって初めて興味を持った人でも、美しい写真は視覚的に楽しめるでしょうし、人物や出来事の物語は読み応えがある内容になったと思います。将来にわたり、さまざまな形で生かしてもらえればうれしいです。



書籍を手にする黒川さん



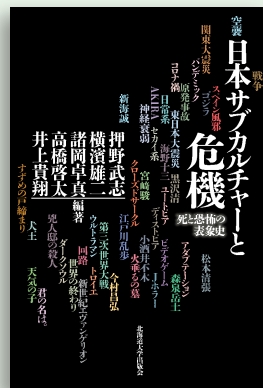
ほっかいどうの本

このコーナーは北海道の出版社から発行された本を社員が読み紹介しております。お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。特記以外は税込価格です。

日本サブカルチャーと危機 死と恐怖の表象史

押野 武志 他 編著

四六判 264頁 3960円
北海道大学出版会 発行 011・747・2308



サブカルチャーは一般のカルチャーを凌駕する勢いだ。かつては冷遇されていた鉄道、モデルガン、お城、刀剣の類いは今や男女の別なく毎日コアなファンが専門サイトにアクセスしている。どんなものが注目されるか皆目不明なのである。

本書は初めに戦前戦後の探偵小説を読み解き、そのことが当時の国民の陥る震災や戦禍の意識からの回避を指そうとしたこと。また、谷崎潤一郎や芥川龍之介の小説にふれ、ある種のエロチシズムとしての『痴人の愛』や『幽車』の浴槽というサブカルチャーにも言及している。

私が一番関心を持ったのは、『砂の器』（松本清張）からの考察で、自らの出自の隠ぺいやハンセン病患者らの世間からの封じ込めという差別を描き出していることである。

『火垂るの墓』（野坂昭如）での言及はアニメ映画と小説を対比させ、空襲による人々の身近な死と短命なホタルの大量死を暗示したのである。

『危機』ということを考え直す上での入門書として手元に置きたい。

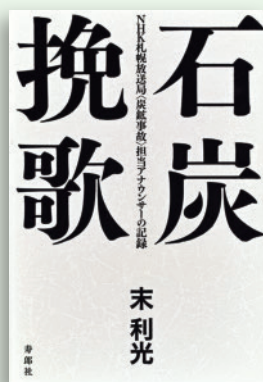
（資料・外注管理部 藤原和茂）

石炭挽歌

NHK札幌放送局
〈炭鉱事故〉担当アナウンサーの記録

末利光 著

四六判 264頁 2530円
寿郎社 発行 011・708・8565



本書はNHK札幌放送局で炭鉱事故担当のアナウンサーをされていた著者による昭和40年代の記録となっており、三度書籍化を試みて、40年振りに掘り起こされた2025年、ついに刊行へと至った力作である。

一度目は同局アナウンサー時代の1967年から1971年にかけて、炭鉱事故、石炭産業の終焉を取材した自身の取材メモをまとめるも、様々な理由から世に出ることはなかった。

二度目は、1981年10月16日に93名もの犠牲者を出した北炭夕張新炭鉱のガス突出事故を取材し、十数年前にまとめた内容に加えて書き上げたものの、残念ながら叶わなかった。

そして、ついに今回、多くの犠牲者を出した炭鉱事故の実情を日本の産業史の中にしっかりと残したいという強い思いが結実した。炭鉱で働く人々の本音や、事故発生時の報道する側の思いが、当事者の言葉で正確に記録されている。著者がこたわり続けた、石炭に命を捧げた方たち、日本のエネルギー政策の犠牲者たちへの思いが込められている。

（北海道営業部 石田みちよ）

その花可憐に色青し

978-4-87739-418-9

齊藤 俊彦 編著

A5判 224頁 2200円
共同文化社 発行 011・251・8078



2022年7月に開催された当別町の亜麻まつりに著者が興味をひかれたことを経緯とし、丹念な資料収集と取材により北海道と亜麻の関わりを紹介する本書が刊行されました。

亜麻などの麻は古来より布の材料で、エジプトのミイラは亜麻布をまとい、近代ヨーロッパでは高級なリネンが重宝されました。明治初頭に農業政策を要と位置づけた北海道開拓使は、外国から人材を登用し亜麻栽培を本格化します。やがて北海道製麻会社（帝国繊維の前身）の設立で産業化し、日清戦争以降に軍服などの需要が追い風となり発展します。

札幌市北区の麻生^{あさぶ}区域には広大な繊維工場がありました。地名に「麻」が含まれる由来です。名寄や富良野など道内各地にも製麻工場はありましたが、戦後急速に縮小しました。

本書では、道内の亜麻に関する歴史などに加え、健康食品としての亜麻仁油、その価値を再発見した「現代のあまびと」たちの活躍も紹介され、新たな北海道産業の可能性が示されています。

（システム管理部 国安 保）

新刊情報

書名の下に数字は日本図書コード（ISBN）及び雑誌コード。特記以外は税込価格。
お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。

北海道キャンプ場&コテージガイド 2025-26

花岡 俊吾 著
A5変型判 320頁 1980円

決定版 北海道道の駅ガイド 2025-26

花岡 俊吾 著
A5変型判 272頁 1980円

カミイの天空 宇宙の聲（そのこえ）

山本 純一 著
A4判 96頁 3850円

新夏山ガイド4 日高山脈・夕張山地

長谷川 哲・谷水 亨 著
B6判 280頁 2640円

北海道 夜汽車の記憶

番匠 克久 著
B5判 96頁 1650円

ビジュアル図鑑 北海道の鳥

大橋 弘一 著
A5判 256頁 2750円

お隣の非正規公務員 地域を変える、北海道から変える

川村 雅則 編著
A5判 172頁 1540円

道新プラス 道新受験情報2026 大学・短大特集

北海道新聞社 編
B5判 250頁 990円

北海道新聞社
〒071 札幌市中央区大通東4-1
☎011・210・5744

東アジアのアクティブ・エイジング サードエイジを生きる

櫻井 義秀・清水 香基 編著
A5判 332頁 6820円

オーストラリア文学の地平 「主体の消滅」を問う

有満 保江 著
四六判 288頁 4950円

北海道の蝶の生活史図鑑 蝶好きの12か月

永盛 俊行 著
B5判 216頁 5720円

北海道大学出版会

〒000 札幌市北区北9条西8丁目
☎011・747・2308

人を育てる農場設計

NPO法人オルタナティブ・
アグリサポート・プロジェクト 監修
B5判 108頁 1980円

北海道協同組合通信社

〒006 札幌市中央区北5条西14丁目
☎011・209・1003

シカバン札幌（映画）生活史 1975-2024

門脇 繁 著
四六判 364頁 2420円

寿郎社

〒080 札幌市北区北7条西2丁目
☎011・708・8565

小樽市立病院ガイドブック

小樽市立病院 編著
A4判 160頁 1320円

北海道の脊梁 日高山脈

『北海道の脊梁 日高山脈』
編集委員会 編著
A4変型判 192頁 2970円

2025年度版

できる合格給水過去6年問題集

諏訪 公 監修
A5判 416頁 3850円

人を大切にする経営学用語事典

一般社団法人
人を大切にする経営学会 編著
A5判 784頁 8800円

爪句@探鳥 里&フィールド

青木 曲直・菊地 美佳子 著
100ミ×74ミ 232頁 5000円

共同文化社

〒060 札幌市中央区北3条東5丁目
☎011・251・8078

紙の表とこ 橋梁の記憶 金山 道子 木版画 44センチ×54センチ

タウシユベツとはアイヌ語で「樺の木が多い川」の意。
その地に大正14年から翌年にかけて帯広〜上士幌間で開業し、昭和14年には十勝三股まで伸びた士幌線（当時は国鉄）。昭和30年に糠平ダムが完成し、ルートは迂回となり、残された鉄道橋は湖面に佇む「幻の橋」タウシユベツ川橋梁に……。水位が上がる8〜10月頃は水没し、冬には凍った湖面を破って姿を見せます。その繰り返しで風化が進み、現在の11連続アーチが見られるのも後わずかと言われています。

GEM木版画会 会員 札幌市在住



※季刊アイワードのバックナンバーを
弊社ホームページよりご覧いただけます。
URL <https://iword.co.jp>